

第1学年 公民科(現代社会) 学習指導案

指導日時：平成27年10月29日(木)

指導学級：第1学年4組(男18・女22/計40名)

指導者：宮城県石巻西高等学校 教諭 幸野久嗣

1 単元名 経済のしくみ

2 単元の目標

平成25年度から実施されている学習指導要領では「現代社会」の目標は次のように規定されている。

人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

この目標は、(1)「人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ」、(2)「現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに」、(3)「自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い」、(4)「良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」という4つの部分から構成されている。この単元を学習するに当たり、(1)～(4)の部分について以下の様なことを目標とする。

(1)の「人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ」については、現代の経済社会の変容等にも触れながら市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせる。

(2)の「現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに」については、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。

(3)の「自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い」については、雇用・労働問題・社会保障について理解させ、個人や企業の経済活動に於ける役割と責任について考察させる。

(4)の「良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」については、経済活動を支える私法に関する基本的な考え方や、公害の防止と環境保全と消費者に関する問題等についても触れる。

3 指導に当たって

(1) 単元について

学習指導要領で、この単元を含む中項目の「現代社会と人間としての在り方生き方」の内容は「現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる」とある。この単元では現代の経済社会と経済活動の在り方を取り上げ、人々の生活・経済を結び付けて学習を進める。

企業の役割・活動・特色・国際化に伴う変化・社会的責任について理解させた上で、市場の仕組み・価格の形成や市場の失敗を考察させる。GDP等の経済指標や経済成長の意味・景気の変動についても認識させ、金融の仕組みと諸制度の理解を促す。中央銀行の役割及び金融政策の働きも把握させ、財政の仕組みとその問題点に関しても留意させる。

(2) 生徒の実態

本校の1年生は全員、地理歴史科・公民科を通じて、この「現代社会」のみを履修している。中学校3年時の「公民」に於いて、若干の学習及び理解は為されているものの、不十分な点が少なくない。又、一般的な知識に欠ける生徒も多少居り、高校生が経済活動の主体となることは実感し辛い為、授業の準備や参加意識・用語説明等、諸場面で配慮する必要が有る。

その中でも1年4組は互いに教え合う雰囲気があり、こちらの働き掛けによって「自ら考え、ともに高め合う」ことが達成し易い学級であるように感じている。

(3) 指導について

- ① 班別学習を行い、意見を出し合わせることで表現力を高め、思考力・判断力を深めさせる。
- ② 可能な限り、具体的な事例及び名称、若しくは実物等を出してイメージ付かせて理解させ、様々な場面・状況での経済の変化を想像させて理解に繋げる。

4 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
経済に対する関心を高め、その在り方を意欲的に追究している。	自ら課題を見出し、個人や企業・政府等の役割や責任について多面的に考察し、その立場・状況を公正に判断しながら、過程や結果を様々な方法で適切に表現出来る。	必要な諸資料を様々なメディアを利用しながら集め、学習に役立つものを適切に選択して効果的に活用している。	経済社会の変容、企業の種類と活動内容、市場の機能と限界、国富と景気変動の様子、金融・中央銀行の働き、政府と財政の役割及び課題について理解出来る。

学習活動に於ける具体的評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
◦様々な経済現象・事項に対して意欲的に追究する。 ◦授業で学習したことを更に調べて探究しようとする。	◦企業や政府の経済活動の社会的影響を読み取り、その責任や役割を文章化出来る ◦市場原理に合わせ、需給曲線を動かせる。	◦企業や会社の種類等の表、寡占市場の円グラフや経済成長の折れ線グラフ等、 図示されているものを理解・思考出来る。	◦企業活動の内容と仕組み、市場原理と寡占市場の様子、及び市場の失敗を認識・理解出来る。 ◦景気変動に関する事項に気付く。 ◦金融システムと中央銀行・財政の役割と問題点を把握出来る。

5 志教育の視点

- (1) 他者の意見を聞くことによって、自分の意見を深めていくことが出来る。
- (2) 自分たちの日常生活と経済の密接な関係性に着目し、自らの果たすべき役割を認識させる。

6 単元の指導と評価の計画(全7時間)

	学習内容	学習活動に於ける具体的な評価規準	評価方法
第1時	経済社会の変容	<ul style="list-style-type: none"> ◦産業革命等を契機に資本主義経済が成立したことと、その後の変容について理解出来る。(知識・理解) ◦アダム・スミスの考えやケインズの理論の概要を考察出来る。(思考・判断・表現) 	生徒観察 ノート・提出物 定期考査
第2時	現代の企業	<ul style="list-style-type: none"> ◦経済主体の1つである企業の役割や株式会社の特色、国際化に伴う変化と社会的責任について理解出来る。(知識・理解) ◦企業の規模や事業内容等について具体例を挙げて調べる。(資料活用の技能) 	生徒観察 ノート・提出物 定期考査
第3時	市場経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ◦財やサービスが需要と供給によって価格設定される市場原理を認識し、これに応じて財やサービスが市場に配分される仕組みを追求しようとする。(関心・意欲・態度) ◦買い手や売り手の立場に立って、価格の役割を考える。(思考・判断・表現) 	生徒観察 ノート・提出物 定期考査
第4時	国民所得と経済成長	<ul style="list-style-type: none"> ◦GDP や国富を始めとする経済指標を理解し、経済成長と景気変動の意味を考察する。(思考・判断・表現) ◦経済の規模や動きをどのようにして計算するのか考える。(関心・意欲・態度) 	生徒観察 ノート・提出物 定期考査
第5時	金融のしくみと働き(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ◦直接・間接金融、通貨制度・信用創造等々、様々な金融システムの仕組みと役割を経済活動と関連させて理解する。(知識・理解) ◦実際に金利等を調べ、金融について関心を深める。(関心・意欲・態度) 	生徒観察 ノート・提出物 定期考査
第6時	中央銀行の役割と金融の自由化	<ul style="list-style-type: none"> ◦中央銀行の果たしている役割及び金融政策の働きについて認識し、金融の自由化・国際化の背景等について考察する。(思考・判断・表現) ◦金融に関する報道記事等を捜して整理する。(資料活用の技能) 	生徒観察 ノート・提出物 定期考査
第7時	政府の役割と財政	<ul style="list-style-type: none"> ◦財政制度の働きとその影響を理解し、市場経済の限界を補う点についても着目する。(関心・意欲・態度) ◦租税と公債、財政問題について実感として捉える。(思考・判断・表現) 	生徒観察 ノート・提出物 定期考査

7 夢を育み、志に高める手立て

- (1) 自分の生活の中から関連する経済活動を見付け出し、関係性及び影響を認識する場を設定する。
- (2) 日本並びに世界経済が抱える諸問題に対して、自分が出来ることややるべきことを考察させる。

8 本時の指導

(1) 題材名 金融のしくみと働き

(2) 本時の狙い

- ① 基本的事項を押さえた上で、金融の役割を経済活動と関連させて理解させる。
- ② 管理通貨制度による通貨量の変化が、経済活動へどのように影響するのか考えさせる。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	具体的評価規準	評価をAとする具体的な姿
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ◦金融システムの概要を掴んでいる。 ◦金本位制を理解出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦直接金融と間接金融の違いを理解出来る。 ◦不換紙幣が管理通貨制度によることを認識出来る。 ◦不換紙幣が国家の信用力によるものを理解する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ◦証券市場で売買されるものを挙げられる。 ◦預金通貨もマネーストックに含まれることを認識出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦直接金融が証券市場で行われることを判断出来る。 ◦信用創造が預金通貨及びマネーストックを増やす仕組みを理解出来る。 ◦景気の変動とマネーストックの関連性に気付く。

(4) 学習指導上の工夫

- ① 言語活動の時間を設定し、学習事項を文章化させる。
- ② グループ活動により、自らの考えを深めさせる。

(5) 準備物

- ① 教科書『現代社会』東京書籍
- ② 資料集『ニュービジョン現社』浜島書店

(6) 本時の展開

段階	学習活動と主な発問	形態	指導上の留意点	評価の規準
導入 10分	<p>1. 「金融との関わり」を感じさせる。</p> <p>◦「自分たちが(将来も含めて)お金を貸し借りする時って、どういう時だろう?」「金利が高いと、どんな影響が?」</p> <p>◦「お金を『融通』してくれるのはどういうところだろう?」</p> <p>◦「金融『市場』って、何処に在るのかな?」</p> <p>◦「もし、『融通』が利かない世界になったらどうなるだろうか。」</p>	一斉 個別	<ul style="list-style-type: none"> ◦生徒間でのお金のやり取りは控えることも話しておく。 ◦「預金」等で、自分たちも金融に関わっていることに気付かせ、「金利」の理解に繋げる。 ◦金融機関の種類については詳しく深入りしない。 ◦金融システムが経済を潤滑にしていることをイメージ付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦具体的な事例を提示出来る。 (思考・判断・表現) ◦班内で意見を出し、話し合える。 (思考・判断・表現)
展開 35分	<p>2. 間接・直接金融を理解させる。</p> <p>◦「間接金融の何が『間接』なんだろうか。」「直接、集めると何か良い</p>	一斉 個別 班別	<ul style="list-style-type: none"> ◦事前に語句を学習した後、発問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦図を見て、間接的に資金が貸し出されて

	<p>こと有るのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦コールレートについて、資料集の図も見ながら理解させる。 <p>3. 通貨の種類と信用創造を理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦「お金って紙なのに、どうして値打ちが有るのだろうか？」 ◦「経済が活発になると、お金の量はどうなる？」 ◦「金本位制・兌換紙幣では経済が活発になると、どの様な不便が？」 ◦「管理通貨制度では、お金は交換出来るの?」「不換紙幣なのに何故、大事?」「『管理』通貨って誰が管理しているの?」 ◦「全財産を現金で持ち歩く人が居ないのは何故?」 ◦「景気が良い時・悪い時、マネーストックはどう変化する?」 ◦「大金を手元に置いておかないのなら、そのお金はどこに置く?」「入金されたら銀行は、そのお金を何に使う?」 ◦教科書の図の続きを班毎に計算させる。 	<p>個別</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦班内で意見交換・発表させる。 ◦教科書・資料集の図でも確認させる。 ◦証券の種類についても見させる。 ◦コールレートが市場金利に影響することだけは伝えておく。 <p>班別</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦玩具のお金等を出して、興味を掻き立てる。 ◦太字の部分等、教科書にアンダーラインさせてから考えさせる。 ◦1929年の世界恐慌以降、ということも認識させる。 ◦「国・政府の信用」に支えられていることに気付かせる。 ◦「現金<預金通貨」・「マネーストック」を確認させる。 <p>◦教科書の図を見せながら、把握させる。</p> <p>◦班別に協働させ、通貨量の増大を実感させる。</p>	<p>いることを理解出来る。</p> <p>(知識・理解)</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>◦話し合って答えを出せる。</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>(知識・理解)</p> <p>◦共同で正解を計算出来る。</p> <p>(思考・判断・表現)</p> <p>(知識・理解)</p>
<p>纏め 5分</p>	<p>4. 中央銀行はマネーストックを増減させて景気の調整を図っていることを理解させる。</p>	<p>一斉</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦次回の予告も兼ねる。 	<p>(知識・理解)</p>